



鳥取の美味しい料理と旨い酒でおもてなし
(有)光琳 味空間こうりん坊 様

●創立:1994年(平成6年)
●住所:鳥取県米子市角盛町2丁目105-5
●TEL:0859-34-6788
http://kourin-g.jp/kourinbou.html

お客様訪問 No.30

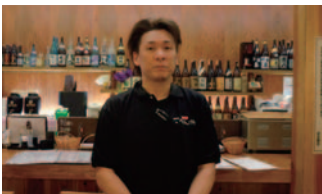
鳥取県で居酒屋を展開している、有限会社光琳(こうりん)様。今回は米子にある居酒屋、味空間こうりん坊の店長、栗田様からお話を伺いました。

■味空間こうりん坊様の特徴を教えてください。

山陰で獲れた新鮮な魚介類を中心に、リーズナブルな価格でおもてなしをするトータル居酒屋です。人気の高い日本酒や焼酎の品揃えも充実しております。店内収容人数も130名を誇り、少人数から多人数まで対応致します。

■お客様に対して、どんな点に気を配っていらっしゃいますか?

お客様に居心地の良い空間をご提供する為、笑顔を絶やさずハキハキとした受け応えを心掛け



▲店長の栗田様

ております。また、店内の段差でお客様がつかずかれないように、お声掛けを徹底しております。

■トイレに関して気をつけている点や、工夫している点を教えてください。

日々の清掃点検はもちろん、全てのトイレに冷暖房を完備しております。また、女子トイレには無料で使えるコスメグッズを設置しております。

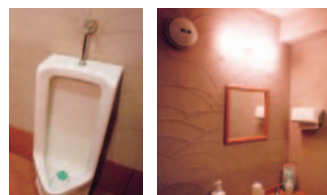
■アメニティを導入して良かった点を教えてください。

以前から「トイレは大切な場所」と意識していました。そんな中、担当の土井さんにリピートメンテナンスを勧められました。薬剤の交換だけではなく、日常清掃のフォローや、設備の不具合の報告をもらえるなど、お客様により快適なトイレ空間を提供できると思い導入しました。最終的には、土井さんの情熱と人柄が決めました(笑)。

またアメニティさん導入後、トイレに対する社員の意識が更に高まりました。

■最後に、担当へ一言お願いします。

これからも、当店の快適トイレ作りのご協力をお願いすると共に、鳥取県にアメニティを広めていってください!



▲尿石防止剤「ピビダリア」(左)と森林浴消臭器「ボンボア」(右)。

☆ 私が担当しています! ☆

SHOP

ANET License ID : 20-1107-0239

アメニティとっとり 鳥取県東伯郡 土井 裕次(どい ゆうじ)さん

味空間こうりん坊様には、弊社開業時よりリピートメンテナンス、スイート(適正水量管理)のご契約を頂いています。お店と同様にトイレもお客様にとって更に居心地の良い空間となるよう、一緒に「ぜんしん」して参ります。こうりん坊様の創作料理は絶品でほっぺが落ちますよ〜!!

(Bネーム) トイレ イッツ 土礼 一穴



佐藤満春のトイレな話

I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! I LOVE TOILET!

第4回

トイレ愛の原点

元々、すごく人見知りで閉鎖的だった私は、TV番組の収録で大部屋に30組くらいの芸人さんがいる楽屋の明るい空気に耐えられず、ひっそり

トイレで本を読むという生活がはじまりました。

ちょうどそんな時に、NHKのプロジェクトXにてウォシュレットの開発秘話の放送回を見て感動したのです。勢いでショールームに行くと、横並びで綺麗な便器が数台あり、近くを歩

くと次々と便座が順々に自動で開いていく模様にまたまた感動!という流れです。僕はどんなトイレの機能に詳しくなっていました。

ただ悲しいことに、トイレの性能話は友人と話が盛り上がる材料にならないんです。閉鎖的な僕はどんどん塞ぎ込む一方です。

“もっと色んな人とトイレの話をしたい!”

もうこれは草の根ですが、トイレの楽しさや奥深さを人に伝えていく作業をしていかないと いけません。ここ数年、大好きなトイレ話をテレビでさせてもらう機会も多くありました。感触も良かったので、これは世の中に少しづつ「トイレ好き」が増えているに違いないと思って

佐藤 満春(さとうみつはる)

お笑いコンビどきどきキャンプの片割れ。趣味のトイレ好きが広がりをみせ、2011年11月電子書籍「佐藤満春のトイレ公論」を発売。自らもトイレ掃除に参加するなど自他共に認めるトイレ好きである。日本トイレ協会会員

おりました。

そして先日、日本トイレ協会会員番号3022番の僕は、貴重なトイレ仲間のRAGFAIRRの引地さんをトイレ協会にお誘いしました。引地さんも晴れてトイレ協会会員となりました。トイレに関心をもってくれる人が1人でも多く増えたら嬉しいですね。

僕の影響力はまだまだですが、そこはポジティブにトイレ愛を語り続けようと思うと誓いました。

よし、まだまだ先は長い!「趣味=トイレ」が一般的になるくらいがんばります!

ジャー。

編集後記

突然ですが「フォーク待ち」ってご存知ですか?銀行のATM等が代表的ですが、順番待ちをする人の列は1列で、空いたATMに順番に流れていくアレです。フォークの様に、1本の棒の先端が数方向に分かれることから「フォーク待ち」と呼ぶそうです。いつ頃からか、駅などの混雑するトイレの床にも線が引かれる様になり、「フォーク待ち」する人の列を見かける様になりました。たった1本の線ですが、公平性を促す素晴らしい線だと思います。(雄撃弾治)

information!

本紙中面の西岡先生の文献でも触れられている「トイレシンポジウム」が今年も開催されます。第28回目となる今年のトイレシンポジウムは、2012年11月9日(金)/渋谷区の予定です。詳しくは日本トイレ協会 HP をご覧ください。日本トイレ協会 HP <http://www.toilet-kyoukai.jp/>



特集

トイレ管理の免許証

アネット ライセンス

ANET License

2012年4月より、これまでの「トイレ管理士3級」から「ANET License」へ、名称が変わりました。ANET Licenseは、これまでと同様に、トイレの予防型メンテナンス「リピートメンテナンス」に従事することができる免許証です。

1 ANET License のリピートメンテナンス

皆さんは、トイレも私たち人間と同じように、定期的な健康チェックが必要なことをご存知ですか?私たちの健康のバロメータとなるトイレ(排泄)ですが、ニオイや汚れのない快適な状態を保つために、トイレも健康管理が必要です。そして、トイレの健康管理を行うシステムとしてアメニティネットワークが生み出したのが、「リピートメンテナンス」です。

皆さんは、トイレも私たち人間と同じように、定期的な健康チェックが必要なことをご存知ですか?私たちの健康のバロメータとなるトイレ(排泄)ですが、ニオイや汚れのない快適な状態を保つために、トイレも健康管理が必要です。そして、トイレの健康管理を行うシステムとしてアメニティネットワークが生み出したのが、「リピートメンテナンス」です。

皆さんは、トイレも私たち人間と同じように、定期的な健康チェックが必要なことをご存知ですか?私たちの健康のバロメータとなるトイレ(排泄)ですが、ニオイや汚れのない快適な状態を保つために、トイレも健康管理が必要です。そして、トイレの健康管理を行うシステムとしてアメニティネットワークが生み出したのが、「リピートメンテナンス」です。

2 免許制度としてのANET License

「ANET License (旧トイレ管理士)」は、アメニティネットワーク内の資格認定機関が構築した資格で、トイレの「リピートメンテナンス」を実施することができる免許証です。

フランチャイズで全国展開しているアメニティネットワークとして、スタッフが全国で均質で高品質なサービスをお客様に提供できる様、この免許制度を導入しています。

ANET License は、トイレを管理するために必要な知識や技能の研修を修了し、検定試験に合格した者に与えられたプロフェッショナルの称号です。

トイレに関するお悩みやご質問がございましたら、私たち「ANET License」有資格者に、お気軽にお声がけください。

カワヤトビオ「間違いないクイズ1」でおなじみの「ハネオ君」のお兄さん。

ANET License
AMENITY NETWORK EMPLOYEE TASK LICENSE

第20-1204-0000号

カワヤトビオ

事業所名 株式会社アメニティ
交付 2012年 4月 1日

アメニティネットワーク技能検定協会

新しいIDカード

ANET License の定義

(Amenity Network Employee Task License)

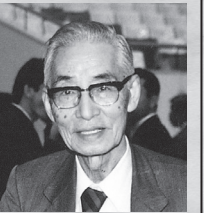
アネットライセンスは、アメニティネットワークの一員として、快適な生活環境の構築を目指し、トイレのリピートメンテナンスが提供できる技能を有する者に与えられる資格です。



トイレ博士 西岡秀雄先生の文献から学ぶトイレ文化

このコーナーでは、トイレ博士 西岡秀雄先生が遺された文献の中から、トイレ 文化に関する興味深い内容を、皆さまにご紹介するものです。

【西岡秀雄先生 プロフィール】
●日本トイレ協会初代会長・名誉会長
●慶応義塾大学名誉教授
●大田区立郷土博物館元館長



第4回 【トイレ文化と意識の変化-2】トイレの考古学 (1997.5.30)より抜粋

トイレへの関心の深まり

日本でも少しずつではありますが、トイレの文化や学問について見直したり、考えたりする機会が増えてきました。

そのような中で、日本トイレ協会ができるなど、トイレへの関心もずいぶん深くなってきました。また、協会事務局の頑張りもあって、毎年開催してきたトイレ・シンポジウムも定着し、平成元年(1989)にパリで日仏トイレ・シンポジウムを開き、平成6年は神戸で、平成7年は香港で、また平成8年には富山で国際トイレ・シンポジウムを開くことができました。このように、段々とトイレが脚光を浴び始めていますが、この気運を上手に運営すれば、日本がトイレの先進国として世界的に認められていくのではないかと、いう段階にきています。

トイレだと言ってばかにしないで、いろいろ面白いことがあるということを、分かっていたきたいと思います。

「ニュートンも己(おのれ)の糞(ふん)に気が付かず」

日本だけでなく外国でもトイレが汚いことが多いので、これを改善しようという期待を込めて、日本トイレ協会が外国の優秀なトイレに対するグランプリ「西岡賞」を制定しました。その時、グランプリの記念品として、陶器の皿を贈りました。ただ、単なる皿ではつまらないということで、トイレに関する、それも物理学的イメージを含めた川柳を使い、書き入れることにしました。



▲西岡賞の記念品

「ニュートンも己の糞に気が付かず」
“Newton noticed not gravity in the fall of excrement.”

ニュートンといえばリンゴですから、皿の真ん中に大きくリンゴを描きました。川柳は、賞の対象が外国ですから英語に訳して入れたのです。しかし、日本ならニュートンとリンゴが並んでいれば、すぐ万有引力とか重力と連想してくれるのですが、外国では分からない人がいるということです。そこで、ニュートンが何に気が付かなかったのかも訳に表現しました。ですから英語では、重力という単語(gravity)も入っています。

賞の条件としては、日本のトイレに無い特徴、より良い特徴がなければなりません。その最初の受賞作となったのは、フランス・パリの「オートマチック・トイレ」(①)と、スウェーデン・ストックホルムの「ユニット・トイレ」(②)という名の公衆トイレです。

パリの「オートマチック・トイレ」は、公衆トイレですから、どのような人が利用し、便器や壁など、どこに触るかわからないので、利用者がトイレから出た後、天井に装備されている化学薬品が室内に噴射され、消毒する仕組みになっています。これがすぐ乾いて、次の人が気持ち良く利用できるのです。日本では、そこまで徹底してい

ませんから賞の対象となりました。

ストックホルムの「ユニット・トイレ」は、外壁が特殊なほうろう質でできていますから、落書きもできないし、きれいなのです。中に入ると場所柄、北欧の作曲家シベリウス(フィンランド)の交響詩「フィンランディア」がBGMとして聞こえてくるなど、すばらしいということで賞をさしあげました。

糞尿と化学

最近、化学が大変進歩したお陰で、糞尿が細かく分析され、その成分も良く分かってきています。例えば尿の成分はアンモニアだけではありませんし、糞もスカトールだけでなく、いろいろな成分が含まれていることが知られています。ですから、成分の内、

何がどのように臭うのか分かりますから、それを消去する薬品を開発すれば、悪臭に悩まされなくなるわけです。

それから、人間の体の中にはコレステロールがあります。それが糞になって出ていく時に、大腸菌の中の細菌によって、コレステロールがコプロスタノールに変わります。その男女比率が、男性 4.23:女性 2.15 と違ってきます。ですから、トイレを発掘した時、便槽の中に詰まっている土にコプロスタノールがどれくらい残っているのか分析すれば、それが男性用トイレか、女性用トイレかわかってしまいます。これまでの考古学関係の展示では、石器や土器のような目に見える資料が陳列されているのが普通でしたが、現在は顕微鏡の世界まで入っています。

トイレと植物学

(1) フキ

トイレと植物学との関係を考えてみ

ます。北海道から九州まで普遍的に見られる植物にフキがあります(③)。

ですから、日本人にとっては馴染み深く、どこでも採れて都合良かったので、その葉はトイレトペーパーの代わりに利用されました。言語学者の故金田一京助先生は、「フキ」という名前は「拭く」という言葉から生まれたのだとされています。ただし、沖縄ではフキではなくユウナ(オオバマポウ)の葉を使っています(④)。

このように、大きくて薄い葉であればフキでなくても構わないのです。いろいろな文献で調べたのですが、モミジのような小さな葉は駄目なようです。海草は、佐渡島や北海道などで使っていますが、茎の部分は捨てて、葉の広い所を使う、ホンダワラのようにかさつくのは痛いので使わないようです。いずれにしても、自然に生えていて安く手に入る植物は、お尻を拭くのにには大変便利だったということです。

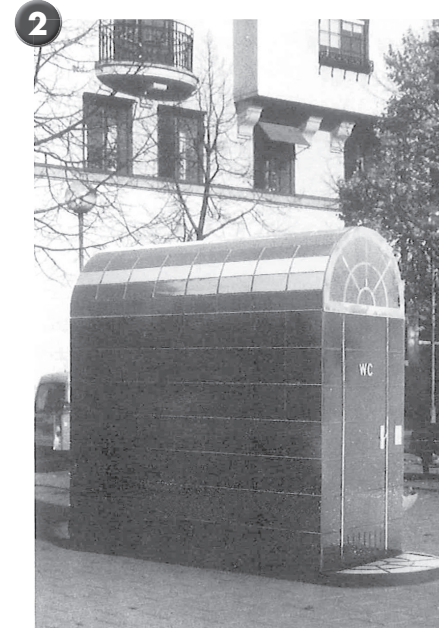
(2) スギ

植物との関係で忘れられないトイレに、徳川光圀(水戸黄門)が隠居した西山荘(茨城県常陸太田市)の小便用トイレがあります(⑤)。ここでは、熨斗の形をした小便器が部屋の隅に備え付けられています。熨斗の形は上の方が直角になっていますが、この部分が部屋の角に合わせて置いてあるので、便器をまたいで用を足すことになります。そこで、周りに小便が跳ねると困るので、便器の中にスギの葉が敷いてあるのです。このスギの葉は大変便利で、小便が跳ねないだけでなく、用を足している時の音が聞こえなくなる、においが消せると、3つの利点があるのです。

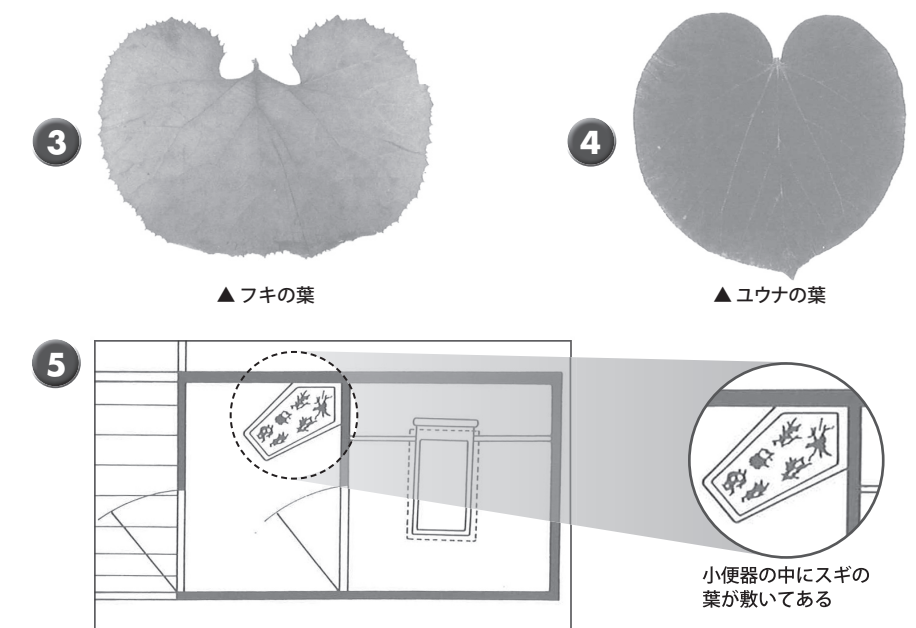
このスギの葉のような利用方法は、他の種類の植物でも可能だと思いますが、このような視点からもトイレと植物学の間を考えることができるわけです。



▲フランス・パリ「オートマチック トイレ」



▲スウェーデン・ストックホルム「ユニット トイレ」



▲西山荘のトイレ平面図